

## 令和2年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

芥川高校がめざす学校像は『豊かな人間力とグローバルな視点で、自ら考え行動し、主体的に進路を切り拓く力を持った生徒を育てる学校』。

- 1 「自ら考え行動し、主体的に進路を切り拓く力」を持った生徒の育成
- 2 「グローバルな視点で考える力」を持った生徒の育成
- 3 「豊かな人間力」を持った生徒の育成

## 2 中期的目標

## 1. 自ら考え行動し、主体的に進路を切り拓く力を持った生徒の育成

## (1) 学力の向上（授業力向上、学習環境整備等）

- ア：生徒にとってより「魅力的な授業」「わかる授業」となるように、教職員が切磋琢磨する環境づくりと組織的な取組みを推進する。  
イ：生徒の理解が深まるように ICT 等の環境を整備し、それらを活用した授業力向上を図る研究と運用を推進する。  
ウ：生徒に自学自習力が身に付くように課題等を工夫する。

\*授業アンケートの授業満足度は、今後も満足度 80%以上を維持する。(H29：74.3% H30：75.5% R1：82.0%)

## (2) 希望進路の実現

- ア：望ましい勤労観・職業観を持ち、主体的に進路を選択できる力を育むキャリア教育を推進する。  
イ：「学力生活実態調査」を活用し、一人ひとりの希望進路に応じたきめ細かい進路指導を行う。  
ウ：新しい大学入試制度に対応した、主体性を持って多様な人と協働して学ぶ姿勢を身に付けさせるとともに、活動記録を適切に残す。

\*生徒向け学校教育自己診断における進路指導への満足度 90%以上をめざす。(H29：87.9% H30：88.6% R1：89.2%)

\*一人ひとりの希望進路に応じた丁寧な指導を行い、進路希望の多様化にも対応し、希望進路達成率 80%以上を維持する。

(H29：78.8% H30：80.0% R1：81.8%)

## 2. グローバルな視点で考える力を持った生徒の育成

## (1) 使える英語力の育成

- ア：高大連携等による「グローバル専門コース」の充実と、英語4技能の育成を図る。  
イ：生徒の英語に関する資格への関心を高め、実用英語技能検定等の資格取得や英語学力調査で得点率向上をめざす生徒を増やす。

\*実用英語検定資格取得者を、令和4年度までには 80 人以上とすることをめざす。(H29：52 人 H30：74 人 R1：60 人)

## (2) 国際感覚の育成

- ア：交流生の派遣や受け入れ等国際交流を促進する。  
イ：海外修学旅行等の推進により異文化と触れる機会を確保する。

\*生徒向け学校教育自己診断における異文化理解教育に対する肯定率 80%以上を維持する。(H29：71.0% H30：83.0% R1：84.6%)

## 3. 豊かな人間力を持った生徒の育成

## (1) 体験学習の充実

- ア：保育園実習や老人ホーム実習をより充実させる。  
イ：地域と連携した体験活動の充実を図る。

\*生徒向け学校教育自己診断における地域との関わりに対する肯定率 80%以上を維持する。(H29：73.0% H30：75.2% R1：81.1%)

## (2) 学校行事、部活動の振興

- ア：学校行事の地域等への公開を促進させる。  
イ：部活動の活性化と効率的な運用により学習との両立を図る。

\*部活動加入率を毎年引き上げ、令和4年度には 80%とする。(H29：75.0% H30：76.3% R1：77.1%)

## (3) 規範意識の醸成

- ア：全体指導から学年・学級指導、個別指導につながる段階的な指導を徹底し、生徒が主体的にルールやマナーを守ることができるようにする。  
イ：生徒指導のみならず安全教育等あらゆる機会をとらえて規範意識の向上を図る。挨拶がしっかりとでき、時間を守る生徒を育成する。

\*生徒向け学校教育自己診断における規範意識に関する設問の肯定率 90%以上を維持する。(H29：91.0% H30：92.0% R1：93.1%)

## (4) 人権意識の向上

- ア：すべての学校教育活動を通じて一人ひとりを大切にする人権教育を推進する。

\*生徒向け学校教育自己診断における人権教育に対する肯定率 80%以上を維持していく。(H25：77.0% H30：83.3% R1：84.4%)

## 4 信頼される学校づくり（教員力と情報発信力の向上）

## (1) 次世代を支える教員の育成とチームとしての教員力の向上

## (2) 開かれた学校をめざした、学校情報の積極的な発信

## (3) 中学生やその保護者に対する、芥川高校の魅力発信

\*生徒向け学校教育自己診断における教員の協力体制に関する肯定率を、令和4年度には 85%とする。(H29：79.0% H30：82.3% R1：82.8%)

\*保護者向け学校教育自己診断における情報発信に対する肯定率を、令和4年度には 90%とする。(H29：83.0% H30：84.3% R1：82.7%)

\*学校説明会・オープンスクールへの中学生および保護者の参加人数を令和4年度には 1200 人超をめざす。(R1：894 人)

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析〔令和2年12月実施分〕   | 学校運営協議会からの意見   |
|--|--|
| <p>※ ○囲いの数字は、それぞれの質問番号</p> <p><b>生徒アンケート結果より</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質問全 23 項目中、前年度より 1 ポイント以上、肯定的回答率のポイントがダウンした項目が 4 項目、逆に 1 ポイント以上アップした項目が 13 項目となった。</li> <li>・上記の中で 5 ポイント以上をポイント落とした 3 項目を見ると ⑩「環境・国際理解・福祉ボランティアの学び」、⑪「地域のみなさんとの関わり」、⑫「海外交流」など新型コロナウイルス感染症拡大によって、その機会を奪われたことが原因として考えられるものであった。今後の情勢にもよるが次年度は今年実施できなかった様々な取組みの継続またはカタチを変えた取組みを実施したい。</li> <li>・5 ポイント以上伸ばした項目は、⑬「健康管理」と ⑭「緊急事態発生時の対応」で、感染症対策を講じる中で培えたものであると考えられる。今後も様々な事象に迅速かつ柔軟に対応できる組織的な運営を行なっていく。</li> </ul> <p><b>保護者アンケート結果より</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質問全 21 項目中、前年度より 1 ポイント以上、肯定的回答率を落とした項目が 8 項目、逆に 1 ポイント以上伸ばした項目が 7 項目となった。</li> <li>・上記のダウンした項目の中で 5 ポイント以上落とした項目は、生徒回答同様、⑭「環境・国際理解・福祉ボランティア等の学びの機会」と、保護者の参加や協力が叶わなかった ⑮「授業参観」、⑯「授業・行事・クラブ活動での連携」、そして縮小及び中止等のあった ⑩「体育祭・文化祭・校外学習などの行事」の 4 項目と、留意しなければならない ⑫「学校へ行くのを楽しみにしている」であった。先の 4 項目については新型コロナの影響と考えられるが、⑫については、その要因の検証と満足度を高める施策を考えていかなければならない。</li> <li>・ポイントを伸ばした項目は、共に 5 ポイント未満の微増であった。</li> </ul> <p><b>教職員アンケート結果より</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質問全 37 項目中、5 ポイント以上（分母が少ないため 5P とした）ダウンした項目が 10、アップした項目が 11 であった。その中でも 10 ポイント以上のアップ、またはダウンした項目は共に 5 項目であった。</li> <li>・10 ポイント以上ダウンした 5 項目 <ul style="list-style-type: none"> <li>③「学校の特色」及び ⑩「海外交流」は、新型コロナウイルス感染症拡大の下、本校の特徴的な取組みである、保育実習・高齢者施設実習・地域交流・海外交流が実施できなかった点が上げられ、来年度、実施の方向で考えていく。</li> <li>⑭「キャリア教育」については、その他の進路に関する項目や、生徒・保護者の回答を見ると、あまり大きな問題点が見出せないため、中身の検証が必要である。</li> <li>⑮「部活動」は、臨時休校や時差登校等で新入生のスタートが遅れたものの例年と変わらない入部者数であったが、様々な制限がある中の活動にモチベーションを落とす生徒（特に 2 年生）が見られた。部活動は本校にとって重要な位置づけであるため、今後より一層の活性化に向けて取り組んでいかなければならない。</li> <li>⑯「教職員の意見の反映」については、情報共有と合意形成を図りながら、組織だった学校運営が必要である。</li> </ul> </li> <li>・10 ポイント以上アップした 4 項目をそれぞれ見てみると <ul style="list-style-type: none"> <li>④「わかりやすい授業の工夫」及び ⑰「授業方法の検討」など、授業力向上に係る項目である。今年度プロジェクターの設置や Wifi 整備とその活用など、先進的な研修や交流が行われた成果だと考える。来年度も継続して切磋琢磨できる環境を整える。</li> <li>⑱「生徒の規範意識」は、生徒が自身のスタンダードを高められるよう指導を継続していく。</li> <li>⑲「政治的意識の涵養」は、昨年度の高槻市の協力で実施した生徒会選挙のイメージが強く残っていると考えられる。今後、継続した取組みが望まれる。</li> <li>⑳「人材育成」については、今年度、新しく「あくた会」が立ち上がり、多くの声を反映できる場、そして研修の場となるような組織にしていく。</li> </ul> </li> </ul> | <p><b>第 1 回学校運営協議会</b></p> <p>①開催日 令和 2 年 6 月 30 日（火） ※書面による開催</p> <p>②学校運営協議会からの意見等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4 月からの学校の動きについて、生徒の安全面を第一に置き、生徒専用 HP を利用した学習課題提示や、分散登校時の 3 年生対象進路関係ガイダンスを実施したことに対して高く評価する意見が多く出された。</li> <li>・学校経営計画について、達成目標の数値設定の整理や文言の整理・変更により、中期的目標の内容がより明確になった点や、本年度の取組内容に複数の新たな視点が加わったことを評価する意見が出された。また、取組の内容に求めるものとして、「自立」の力を身につけ育むこと、危機管理体制の確立、ICT の利活用の推進などが挙げられた。</li> <li>・進路指導部より、今春卒業生は来春再受験する生徒の割合が低く、多くの合格を勝ち得たこと、現 3 年生は昨年度 3 年生に比べ 4 年制大学進学希望者が 4 ポイント程度多いこと、分散登校を利用して 3 年生の進路希望別ガイダンスを実施したこと等が報告された。それに対し、新型コロナウイルス感染症の影響で今後も予定変更を余儀なくされるだろうが、これまで通りの進路指導の質を担保することを期待する意見や、この環境下で生徒が感じている漠然とした不安を取り除き、生徒が悔いのないチャレンジをできるようサポートを求める意見が出された。</li> <li>・生徒による授業アンケートの内容について賛成多数により承認された。</li> <li>・教員のきめ細かい指導や心のサポート・ケアも求める意見があった。また、校長ブログによるコンスタントな情報発信が「信頼される学校づくり」に有効であると評価する意見があった。・会長及び会長代行の選出について</li> </ul> <p><b>第 2 回学校運営協議会</b></p> <p>①開催日 令和 2 年 11 月 27 日（金）</p> <p>②学校運営協議会からの意見等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業見学について、6 時間目にかかわらず、生徒がきちんと授業を受けていた。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症によって学校経営計画の予定通りの実行は難しいと思われるが、計画の変更はせず、新型コロナウイルス感染症により計画通り実施できなかった旨を明記する予定。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症によって自宅待機になっている生徒への学習機会の保障についてはオンラインのみでの保障は難しく、紙媒体や課題用特設 HP の活用と併せて定期テスト対策の関係の板書・パワポのコピーを生徒に届けるなど G Suite for Education の活用を考えている。</li> <li>・教員のオンラインのデバイスは、コロナ関係の予算等で、教員数の 3 分の 2 弱程度の教員用端末を配備する予定にしている。</li> <li>・今年度は保育実習などの体験学習が新型コロナウイルス感染症によって機会が減り、キャリア意識を育てる上で「こどもが好き」と実感する機会が無くなっている。</li> <li>・大学でも大変な状況で、オンライン授業がほとんどで、9 月時点で学校に行っていない卒業生存在する。また、海外進学を希望していた生徒は渡航できていない。</li> <li>・大学の試験日程も変化していると思うが、例年通り推薦の校内選考は進んだが、大学によって日程にばらつきがある。9 月に決定しなければ公平に選考できないため、選考から試験の間が間延びしてしまった感は否めない。</li> <li>・学校経営計画 3（3）規範意識の醸成について、コロナ対策のマナーも追加してはどうか。</li> <li>・ICT 化が進み、プロジェクター活用が課題であると感じる。検討してほしい。</li> </ul> <p><b>第 3 回学校運営協議会</b></p> <p>①開催日 令和 3 年 3 月 1 日（月） ※書面による開催</p> <p>②学校運営協議会からの意見等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の運営協議会以降の学校の様子について、感染症対策を講じながら校外学習や職業別ガイダンス、球技大会等の行事の実施や、和太鼓部やダンス部の活躍を評価する意見が多く出された。</li> <li>・令和 2 年度学校経営計画にもとづく取り組みの学校による自己評価の内容について、賛成多数により承認された。コロナ禍にあってほぼすべての項目で良好な結果となったことを評価する意見が出された。国際交流や体験活動など外部との交流は制約が大きい状況下であるが、本校の特色の柱でもあり、今年度の経験を活かした工夫ある取組みを求める意見もあった。</li> <li>・本校生の進路状況について、入試制度の変革期とコロナ禍が重なった中であっても、資料からはしっかりした進路指導と学習の成果がみられると評価する意見が出された。</li> <li>・令和 2 年度 授業アンケート結果について、ICT 環境の整備が進み、その好影響と推測される結果が得られたことを評価する意見が多くあった。各教員への結果返却後の取り組みについても評価する意見が出された。また、今後もオンラインによる学習が必要となる事態に備え、家庭での自律的学習の強化を求める意見もあった。</li> <li>・令和 2 年度 学校教育自己診断結果について、経年変化を見ると肯定的回答が少しずつでも増加している点を評価する意見があった。コロナ禍で結果に影響が出たと考えられる項目については、それを踏まえた次年度の工夫・対策を求める意見が出された。また、結果を踏まえた校内での分析や、アンケートの自由記述回答には、多くの重要かつ具体的な課題が含まれており、しっかりと対策が必要であるとの指摘もあった。</li> <li>・令和 3 年度学校経営計画案について、賛成多数により承認された。教育 ICT の利活用や新型コロナ対策等、時宜を得た内容であるとの意見が出された。また、取組の内容に求めるものとして、新学習指導要領施行にあたってのその準備を含めた取組みを行うことが挙げられた。「グローバルな視点で考える力」の育成については、国と国を跨いだ国際的な事業だけでなく、国境が関係ない地球規模でのコロナ禍での諸問題を、異文化間理解の観点から考えることが良い材料になり得るのではないかとする助言があった。</li> </ul> |

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標                            | 今年度の重点目標   | 具体的な取組計画・内容   | 評価指標  | 自己評価   |
|----------------------------------|--|---|---|--|
| 1. 自ら考え行動し、主体的に進路を切り拓く力を持った生徒の育成 | <p>1) 学力の向上</p> <p>ア より「魅力的な授業」「わかる授業」を創造する。</p> <p>イ 教員の授業力を向上させる。</p> <p>ウ 自学自習力をつける。</p>                          | <p>ア・「授業改善に向けた共通取組項目」(「あくたベース」)を示し、目標やポイントをわかりやすく示し、最後に振り返りを行う授業、生徒が主体的に取り組む授業作りを推進する。</p> <p>・生徒による授業アンケートの活用を活用した授業改善に取り組む。</p> <p>イ・教員相互の授業見学を推奨するとともに授業マイスターの指名等、教職員が切磋琢磨できる環境をつくる。</p> <p>・ICT 機器の整備を拡充し、それらを活用した授業づくりを推進する。</p> <p>ウ・自学自習力をつけさせるよう、各教科で課題等を工夫する。</p> <p>・個別面談、学習到達度教材等を活用して、生徒の家庭学習時間増加のために、部活動との両立、生活時間の自己管理の習慣をつけさせるような啓発指導を行う。</p> | <p>ア・生徒向け学校教育自己診断結果における教科指導への肯定率 70%以上。</p> <p>(令和元年度 72.4%)</p> <p>イ・授業アンケートにおける授業満足度(興味・関心・知識・技能に関する生徒の意識に関する項目) 80%以上。</p> <p>(令和元年度 82.0%)</p> <p>ウ・授業アンケートにおける授業の事前事後に必要な学習の実施率 80%以上。</p> <p>(令和元年度第2回 79.8%)</p>   | <p>ア・生徒向け学校教育自己診断結果における教科指導への肯定率</p> <p>(令和2年度 75.4%【○】)</p> <p>▶「あくたベース」の活用</p> <p>▶前後期授業アンケートに係る、振り返りシートの提出(提出率 90.7%)</p> <p>イ・授業アンケートにおける授業満足度</p> <p>(令和2年度 82.3%【○】)</p> <p>▶相互授業見学推奨と授業マイスターを指名</p> <p>▶ICT 機器の整備し有効に活用</p> <p>ウ・授業アンケートにおける授業の事前事後に必要な学習の実施率</p> <p>(令和2年度 80.7%【○】)</p> <p>▶5月休校後の課題配布およびオンライン授業に向けた取組みを実施</p> <p>▶個別面談、学習到達度教材を通し自己管理能力を高めた。</p> |
|                                  | <p>2) 希望進路の実現</p> <p>ア 望ましい勤労観・職業観を持ち、主体的に進路選択できる力を育むキャリア教育を推進する。</p> <p>イ 個々の希望進路に応じたきめ細かい進路指導を充実させる。</p>           | <p>ア・「憧れる存在をみつけよう」をコンセプトとし社会に貢献する自分像を明確にイメージすることを目的として、直近の卒業生による進路講話や職業別ガイダンス等を実施する。</p> <p>イ・個別懇談等で、一人一人きめ細かい進路指導を実施する。また、活動記録を適切に残し活用する。</p> <p>・大学入試結果を分析し、大学別進学ガイダンスの内容をより実効性の高いものにする。</p> <p>・PTA 学年懇談会等の機会を活用して進路講話等を実施し、保護者にも早い段階で生徒の希望進路実現に向けた意識を高めていただき、希望進路の実現を図る。</p> <p>・「3年間の高校生活での学び」の一覧表などで学校行事や進路指導等で生徒に身に付けさせたい力をわかりやすく提示する。</p>           | <p>ア・生徒向け学校教育自己診断結果における進路指導(進路や生き方について考える機会の提供)への満足度 90%以上。</p> <p>(令和元年度 89.2%)</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断結果における進路情報提供への満足度 85%以上。</p> <p>(令和元年度 87.5%)</p> <p>・保護者向け学校教育自己診断結果における進路情報提供への満足度 80%以上。</p> <p>(令和元年度 79.1%)</p> <p>・希望進路達成率 80%以上</p> <p>(令和元年度 81.8%)</p> | <p>ア・生徒向け学校教育自己診断結果における進路指導への満足度</p> <p>(令和2年度 90.1%【○】)</p> <p>▶年度当初のスタートは遅れたが7月以降は予定通り実施</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断結果における進路情報提供への満足度</p> <p>(令和2年度 90.2%【○】)</p> <p>▶個別懇談での指導及びキャリアパスポートの作成や外部教育産業を活用した教員向け分析会を実施</p> <p>・保護者向け学校教育自己診断結果における進路情報提供への満足度</p> <p>(令和2年度 81.4%【○】)</p> <p>・希望進路達成率</p> <p>(令和2年度 82.9%【○】)</p> <p>(注) 令和3年4月中に確定の予定</p>                         |
| 2. グローバルな視点で考える力を持った生徒の育成        | <p>1) 使える英語力の育成</p> <p>ア 高大連携等により、「グローバル専門コース」を充実させ、実用性の高い英語力を育成する。</p> <p>イ 生徒の英語に関する資格への関心を高め、英語検定等の資格取得を推進する。</p> | <p>ア・グローバル専門コースにおいて、高大連携による特別授業や留学生や大学生との交流などの充実を図るとともに、学習成果の発表の機会を設ける。</p> <p>イ・授業等を通じ、英語検定等の資格取得を奨励するとともに、グローバル専門コース選択生徒全員に英語学力調査の受験機会を与え、英語4技能を育成する。</p> <p>・グローバル専門コースの取組みをコース以外の生徒に広げていく。</p>  | <p>ア・授業アンケートにおけるグローバル専門コース選択科目の授業満足度 85%以上。</p> <p>(令和元年度 91.2%)</p> <p>イ・英語検定等の資格取得者数 75 人以上</p> <p>(令和元年度 60 人)</p>   | <p>ア・授業アンケートにおけるグローバル専門コース選択科目の授業満足度</p> <p>(令和2年度 91.0%【○】)</p> <p>▶ポスターを作成し交流校に送る取組み等実施</p> <p>イ・英語検定等の資格取得者数</p> <p>(令和2年度 57 人【○】)</p> <p>(注) 毎年実施されている3回の検定の内、第1回目の検定が新型コロナウイルス感染症により校内実施ができなかった事を鑑みた結果、57 人は目標を達成していると判断した。</p>  |
|                                  | <p>2) 国際感覚の育成</p> <p>ア 海外語学研修生の派遣や受け入れ等国際交流を促進する。</p> <p>イ 海外修学旅行等で異文化理解の機会を確保する。</p>                                | <p>ア・外国語指導員(NET)や関係大学、関係機関の協力を得て生徒が国際交流を体験する機会をつくる。</p> <p>イ・オーストラリアや台湾の高校との学校生活交流、留学生の受け入れ、また海外修学旅行等を通して異文化理解の事前・事後学習と現地高校生との交流などにより国際感覚の育成を図る。</p>  | <p>ア・国際交流プログラムに参加した生徒の満足度 85%以上。</p> <p>(令和元年度 87.0%)</p> <p>イ・学校教育自己診断における異文化理解の取組みへの満足度 80%以上。</p> <p>(令和元年度 84.6%)</p>   | <p>ア・新型コロナ感染症拡大のため国際交流実施できず。</p> <p>(令和2年度未実施【一】)</p> <p>イ・新型コロナ感染症拡大のため海外修学旅行及び交流等実施できず。</p> <p>(令和2年度 78.7%【一】)</p>  |

## 府立芥川高等学校

| 中期的目標              | 今年度の重点目標  | 具体的な取組計画・内容   | 評価指標   | 自己評価  |
|--------------------|---|---|--|---|
| 3. 豊かな人間力を持った生徒の育成 | <p><b>1) 体験学習の充実</b><br/>           ア 保育園実習と老人ホーム実習をより充実させる。<br/>           イ 地域と連携した体験活動の充実を図る。</p> <p><b>2) 学校行事、部活動の振興</b><br/>           ア 学校行事の地域等への公開を促進させる。<br/>           イ 部活動の活性化を図る。</p> <p><b>3) 規範意識の醸成</b><br/>           ア 全体指導から学年・学級指導、個別指導につながる段階的な指導を徹底し、生徒が自主的にルールやマナーを守ることができるようにする。<br/>           イ 生徒指導や安全教育等、あらゆる機会をとらえて規範意識の向上を図る。挨拶がしっかりとでき、時間を守れる生徒を育成する。</p> <p><b>4) 人権意識の向上</b><br/>           ア すべての学校教育活動を通じて一人ひとりを大切に人権教育を推進する。</p> | <p>ア・保育園及び老人ホーム実習の事前事後指導を充実させ、福祉に対する意識をより高めるための学習機会とする。</p> <p>イ・地域主催の行事等への積極的な参加、ボランティア活動、近隣中学校との部活動交流を拡充する。</p> <p>ア・学校行事への地域等関係団体の招待など地域や近隣施設との連携を深める。</p> <p>イ・新入生の入学率向上を図るとともに、近隣の学校園や施設、団体との連携を深める。</p> <p>ア・生徒指導をより実効性の高いものとするため、生活時間の自己管理等生徒の実態に立脚した指導方針を示し、すべての教員が統一した指導を行う。<br/>           ・スマートフォン等の指導においては、保護者の協力のもとルールやマナーを遵守させる指導をさらに充実する。<br/>           ・外部講師を招き、保護者と生徒を対象とした情報モラル学習を実施する。</p> <p>イ・交通安全指導週間や防災避難訓練、薬物乱用防止教室等様々な機会を捉え、地域連携のもと規範意識の向上を図る。<br/>           ・登校時遅刻や授業遅刻の指導により、時間を守り、授業を大切に生徒を育てる。</p> <p>ア・人権教育計画に基づき、教科や特別活動等学校教育活動全般を通じて人権教育を実施し、一人ひとりを大切にする教育を実践する。<br/>           ・身近にある人権課題を見逃すことなく、全教員が一貫性のある人権教育を推進する。<br/>           ・スクールカウンセラーや専門機関等と連携して、教育相談をさらに充実させ、一人ひとりの成長を支援する。教員が教育相談のスキルを身に着けるよう研修を充実させる。</p> | <p>ア・生徒向け学校教育自己診断結果における福祉ボランティア等に関する肯定率 80%以上。<br/>           (令和元年度 84.6%)</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断結果における地域交流への肯定率 80%以上。<br/>           (令和元年度 81.1%)</p> <p>ア・体育祭や文化祭、授業発表会等への来場者数 1500 人以上を維持。<br/>           (令和元年度 2046 人)</p> <p>イ・6月時点、部活動加入率 78%以上<br/>           (令和元年度 77%)</p> <p>ア・懲戒件数、10 件以下。<br/>           (令和元年度 11 件)<br/>           ・生徒を対象とした外部講師による情報モラル学習を早期に実施する。</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断結果における規範意識への肯定率 90%以上の水準を維持。<br/>           (令和元年度 93.1%)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断結果における人権教育への肯定率 83%以上を維持。<br/>           (令和元年度 84.4%)</p> | <p>ア・新型コロナウイルス感染症拡大のため保育園実習及び老人ホーム実習ができなかったが教科指導で福祉に関する学習を行なった。<br/>           (令和2年度 78.7%【一】)</p> <p>イ・新型コロナウイルス感染症拡大のためボランティア活動及び近隣中学校との交流、共に実施できず。<br/>           (令和2年度 73.2%【一】)</p> <p>ア・体育祭、文化祭ともに非公開<br/>           (令和2年度非公開【一】)</p> <p>イ・近隣の学校園や施設、団体との連携は新型コロナウイルス感染症拡大のため交流できず。<br/>           (令和2年度 71.0%【一】)</p> <p>ア・懲戒件数<br/>           (令和2年度 4件【〇】)<br/>           ・SNS に関する講演実施し、情報モラルに係る事案の発生を制できた。【〇】</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断結果における規範意識の肯定率<br/>           (令和2年度 94.1%【〇】)<br/>           ▶交通安全指導、防災訓練、薬物乱用防止教室、全て実施し危機管理能力を高めた。<br/>           ▶年間遅刻累計、令和元年度 2588 回に対して、令和2年度 1872 回で 715 回減</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断結果における人権教育への肯定率 83%以上を維持。<br/>           (令和2年度 83.7%【〇】)<br/>           ▶年度当初の予定を後ろにずらしたが全て実施<br/>           ▶身近にある人権課題を共有し一人ひとり大切に人権 HR を実施した。<br/>           ▶スクールカウンセラーや自治体の子供家庭センター等と連携を取りながら対応した。また、教育相談に係る教職員研修を実施した。</p> |
|                    | 4. 信頼される学校づくり(教員力と情報発信力の向上)   | <p><b>1) 次世代を支える教員の育成とチームとしての教員力の向上</b></p> <p><b>2) 開かれた学校をめざした、学校情報の積極的な発信</b></p> <p><b>3) 中学生やその保護者に対する、芥川高校の魅力発信</b></p>   | <p>・校務検討委員会等を中心に、教職員の働き方改革の観点からも業務の円滑化・連携強化・平準化・効率化を図り、組織力を向上させる。<br/>           ・次世代を支える教員が中心となって企画運営する教員の自主研修の充実など、教員力向上を図る。</p> <p>・メールマガジンやホームページを活用し、必要な学校情報をよりタイムリーに発信する。</p> <p>・学校新聞「芥川」を地域と学校をつなぐツールと捉え有効に活用するとともに、PV 作成や写真展示等による生徒の輝く姿を前面に出したコンテンツを用意し広報活動をより一層充実させる。</p>  | <p>・生徒向け学校教育自己診断における教員の協力体制に関する肯定率 84%以上。<br/>           (令和元年度 82.8%)</p> <p>・保護者向け学校教育自己診断結果における家庭への情報提供に関する肯定率 85%以上。<br/>           (令和元年度 82.7%)</p> <p>・オープンスクールおよび学校説明会への参加者 1000 人超。<br/>           (令和元年度 894 人)</p>   |